

ディーゼル車両リハビリ事業、ディーゼリハビリ活性化事業



ディーゼル車両内光景

借款概要

承諾額/実行額	5,931百万円/5,448百万円
借款契約調印	1988年7月及び1996年12月
借款契約条件	金利3.0%/2.7%、返済30年(据置10年)
貸付完了	1999年2月及び1999年3月

事業概要

1987年以前に調達されたディーゼル車両の修理を行うことで同車両の再生を図り、もって、ジャボタベック圏及びその他主要都市間の鉄道輸送力の増強に寄与するもの。

評価結果

本事業により修復されたディーゼル車両は、1995年後半から徐々に再配置が始まり、稼動車両数・稼動率の改善に貢献している。また、車両が再配置されたスラバヤ・コタ〜ジョンバン区間ではそれまでバスの乗り継ぎなどで約3時間要していたが、ディーゼル車両運行再開により約2時間に短縮され、交通利便性が向上した。なお、修復車両はドアの開閉等で改善が施され、安全性・快適性の向上にもつながっている。

修復作業は、インドネシア鉄道公社(Perum KA)によって実施された。同会社はその後、1999年にインドネシア政府が100%株式を保有する形で株式会社化されてインドネシア鉄道会社(PT.KAI)となり、同社が運行・維持管理を実施している。本事業で修復されたディーゼル車両の維持管理にかかる予算も、比較的安定して確保されており同社の財務面に係わる特段の懸念は生じていない。